

令和5年度 第3回お互いさま推進協議会 議事録

- 1 開催日時：令和5年11月28日（火） 午後6時30分～午後8時01分
- 2 開催場所：二宮町役場 第1会議室
- 3 出席者：依田会長、永井副会長、春木委員、片木委員、田中委員、西山委員、中村委員、黒澤委員、山下委員、三枝委員、石川委員
欠席：石黒委員、斎藤委員、遠藤委員、松永委員
事務局：健康福祉部長、高齢介護課長、高齢介護課高齢福祉班長、
高齢介護課高齢福祉班員（3名）
- 4 議題
 - (1) 町内の社会資源の整理について
 - (2) 認知症講演会（9月16日開催）について
～ひと足先に認知症になったわたしからのメッセージ～
 - (3) 福祉有償運送運転者講習～認定ドライバー養成講座～について
 - (4) 第2層の協議体について
 - (5) その他

5 議事録

1. あいさつ

事務局

それでは定刻となりましたので、これより二宮町お互いさま推進協議会を開会いたします。委員の皆様におかれましては、ご多忙のところご出席を賜り、誠にありがとうございます。

まず資料の確認をお願いいたします。

(資料確認)

続きまして、傍聴の確認を行います。「会議及び会議記録公開に関する取扱要領」により、本日の会議の公開について委員の皆様へお諮りします。本日の会議を公開することで、公正かつ円滑な審議が著しく阻害される恐れは無いと思われれます。よって本日の会議は公開したいと思っておりますが、いかがでしょうか。

(異議なし)

ありがとうございます。本日の傍聴は1名です。それでは議題に入ります。会議の進行につきましては、依田会長にお願いしたいと思います。

2. 議題

(1) 町内の社会資源の整理について

会長 それでは、事務局より説明をお願いします。

事務局 この事業は生活支援体制整備事業ですが、前回の協議会で、もう一度整理をしたいということがあり、お時間をいただければと思います。それではご説明いたします。資料1をお願いいたします。

(資料1に基づき説明)

前回、前々回と皆さんで共有した、二宮町の地域課題として、ゴミ出しや移動支援が挙がっております。現在町の担当部局とそういった部分について、どういったことができるかということ協議しています。また進捗について、ご報告できる機会があればと思っております。

会長 ありがとうございます。仕組みの問題と、その中で第1層、第2層の協議体がどういった役割を果たすのかということについて前回の協議会で話題になりました。それを再度整理し、まとめたものを今回の資料として出させていただきました。このことに関し、ご質問やご意見等あればお願いします。

事務局 我々だけですと、地縁組織や自主活動、民間企業などの社会資源について発見できないことも多々ありますので、この場でも構わないですし、次回でも構いませんので、何か良い資源等あれば情報提供いただけると助かります。

会長 先ほどの説明の中で、スライドの4ページ目、一番右側に生活支援体制整備事業がありますが、今までの話題の中でも高齢者の方の話が出ており、社会資源の中で医療系というのでしょうか、外出や通院の付添いなどのようなものもあると良いのかなと思いました。

委員 具体的にどういったことを行うのかを明確にした方が良いのではないで

しょうか。

会長

この資料は「地域包括ケアシステム」についてフォーカスしており、システムの説明が中心となっています。私を感じたのは、スライド9ページ、10ページ目でしょうか、生活支援コーディネーター（以下、SC）の役割が記載されていますが、これをSC一人でやるのではなく、皆がやる中でこういった仕組みづくりをしていく。役割についても記載がありますが、「地域に出ていく・地域の声を聞く」とあります。地域の方が声を上げてくださらないと伝わらないだろうし、2点目の「既存の活動等に意味づけ・整理をする」という部分でも、自身たちのみの活動だけでは広がらないだろうし、また、最後の「どうしてもなければ新しい仕組み等を作る」とありますが、今までもこういった場で議論はしていますが、なかなか出てこない。とりあえずは自身が行っている活動の中でやれると良いということをもつ1つ1つ足して、それを絡めていくということになるかと思えます。

委員も活動をされていますが、こういった所が活動できないなどということはありませんか。

委員

様々な団体が様々な活動をしています。それぞれの活動どうしの連携がいまいちできていないように感じています。資料には記載がありませんが、子どもたちへ安く食事を提供する子ども食堂があります。子ども食堂は子どもだけでなく、大人どうしの交流の場としても役割を担い始めたと思っています。ただ、先にも話した通り、団体どうしの交流、情報交換が上手くできていないということが課題です。

またSCの部分について、生活困窮者に対し、社会福祉協議会（以下、社協）などが支援をしています。その支援をしている団体が年に何回か集まる場があります。その場に集まる団体をもっと広がれば良いなと思っています。それぞれが一生懸命に活動をしていても、お互いにそのことを知らないこともあります。そういった部分で、まとめ役を担うのがSCかはわかりませんが、小さい町ですので、声をかけていただければすぐに集まることもできるかなと思っています。

会長

現在子ども食堂について、委員がまとめ役を担っているのでしょうか。

委員

そうですね。委員が中心となって、町内で活動されている4団体をまとめ、年2回、意見交換会を開催しています。

会長

地縁組織について、町内会、自治会、社協部会などについてはある程度

意見交換、情報交換が定期的にできていると思います。自主活動については、横の連携、情報交換がしにくい部分もあるかと思いますが、緩やかな連携ができると良いですね。他に何か社会資源のことについてはありますか。

この社会資源についての資料は、全てを載せているわけではありませんが、先ほどの地域包括ケアシステムに落とし込んで、こういった時にこういう所へ相談すれば良いとか、こういう団体があるんだとか、そういったこともこれからは可能性としてあるのかなと思いますが、いかがでしょうか。先日委員からは、この協議会は何を目指すのかという問いかけもありましたが、いかがですか。

委員

この社会資源の整理について、面白いなと思い見ていました。資源は多くあるという認識の中で、それが上手く活用できている、もしくは活用できていない所へ繋げていこうという趣旨があると思います。活用できていない資源の中に、私もすぐには浮かびませんが、ある種の啓発活動というか、意識が足りていない、届いていないからこういった方面を考えていない企業さんもいると思います。そういった部分を対象に、「地域に貢献してみませんか」という働きかけをすることが、一つ資源の掘り起こすことへ繋がるのではないのでしょうか。やはり片寄りがあると思うんですね。意識改革とビジネスを上手く繋げる方法はないものかと。こういった部分の掘り起こしをすることで面白いものになるのではないかと考えました。

また、地縁組織でもあると思います。元々活動していたのが、個人としての活動でありましたが、方向性を10度でもずらしてみたら、地域での素晴らしい活動になったりすることもあると思うので、元々助け合いという活動ではないところでフォローする方法、アプローチする方法を考えて、資源をまとめることを繰り返したら、どんどん社会資源が増え、町として盛り上がっていくのかなと思いました。

会長

事務局へ質問なのですが、資料の中で民間企業等の中に吉田屋さんや、ノザキ洋品店さんの記載がありますが、これは商品を届けてくださるといった意味合いで掲載しているということですか。

委員

そのとおりです。

事務局

民間企業の部分について、生活支援ファイル、二宮町の社会資源を検索できる「かながわ福祉サービス振興会」のページに記載のあるものを資料に掲載しています。委員がおっしゃられたように、沢山の部分があり、企業の部分もそうであるし、地域の日常生活で行っていることが、実は助け

合い活動になっていて、そういうことがあることによって高齢者になっても暮らしやすい地域になっているということは結果的にあるかと思えます。それぞれの活動を見える化していく、足りない部分をつなぎ合わせる、A社はこういうことができ、B社はA社とは違ったことができる。お互いが補完し合えると、色々な資源があって住みやすい地域に繋がると思えます。まだまだやり切れていないということがこれまでであり、その点も加味しつつ、すぐにはできないかもしれませんが、今後そういった視点で進めることができると良いなと考えています。

会長

区分の仕方についても、別の区切り方もあるかもしれないし、委員がお話されたように、資源とっておらず活動をされている方を社会資源として掘り起こすこともできればもっと充実してくるかと思えます。これで終わりということではなく、その資料を1つのベースにして、皆で少しずつ充実させていくしていく、それこそ掘り起こしをしてプラスしていくということにしたらどうでしょう。なかなか全てをこの時間で読み込むことはできないと思いますが、こういったお店や団体があるよなどという共有はできますよね。

委員

社会資源を整理した際に、二宮町はここが弱いという部分はあるのでしょうか。

委員

少し話がずれてしまうかもしれませんが、介護保険の中で、ヘルパーを利用して買物の支援や家事支援について、他市町村と比較すると、そういった公的サービスを利用されている方が多い印象があります。そういった社会資源が二宮町は少ないというか、知られていないから公的サービスを利用する方が多いのかなという印象を持っています。

会長

資料でいうと一番右側でしょうか。この点が弱いということですね。

委員

生活支援サービスファイルというものがありますが、平成30年くらいに作成したものでありますが、もう6年経過しており、大分内容も変わってきている部分もあります。その見直しが必要であるということと、社会資源の掘り起こしをしていかななくてはいけないかなと思っています。もう少し見えるようにしていければ、公的サービスに頼らずに生活できる方も増えるのではないかと思います。

会長

移動サービスで色々な所へ行くことが多いですが、本当にこれがないと生活できないという所は、否応なしに活動をやらなければいけない状況で

した。二宮町というのは、エリアが割と小さいですので、他の所と比較すると、必要度がまだそれ程でもないのかなとも思います。だからといって無くて良いのかというところではなく、それだけ恵まれているということもあるのかなとも思います。逆にそういった所でこういった物が良いと出てくるかもしれません。

次回もこの議題について取り上げていくというのはどうでしょうか。

事務局

介護保険給付外の高齢者が住みやすくなるサービスは、皆さんの地域の中でもあると思います。是非発見したり、持ち寄ったりしていただき、そこで色々なものが見えてくると同時に、不足している部分も見えてくると思いますので、その作業も今後あわせてやっていきたいと思っています。

会長

そういったデータを集めた中で、新しく仕組みを作るなど、そういった話も出てくる可能性もあるかと思うので、皆様のご協力をお願いします。

(2) 認知症講演会について (9月16日開催)

～ひと足先に認知症になったわたしからのメッセージ～

委員

9月16日に開催しました講演会の報告をさせていただきます。ラディアンホールにて開催をし、第1部に若年性認知症当事者である、さとうみきさんより講演をいただきました。昨年も若年性認知症当事者である丹野さんより講演をいただきましたが、アンケートの結果より、高齢の認知症当事者の方のお話も聞きたいとの声があり、第2部として、かながわオレンジ大使を務めている望月省吾さんより講演をいただきました。また、望月さんはお話をするのにサポートが必要とのことで、鈴木しげさんにも来ていただいています。今回のアンケート結果については、資料2の裏面に記載をしています。今回の講演には132名の参加があり、うち90名の方がアンケートの回答を記載しておりますが、当事者の方のお話を聞くことで、認知症に対するイメージがガラッと変わり、自分の中にある偏見に気が付いたという意見が多くありました。やはり、身近な人に優しくすることや、楽しいと思う趣味を持つことを改めて感じたというご意見もありました。

ご本人たちの苦労ももちろんですが、認知症になったからこそ得られる喜びについてもお話いただき、あたたかな良い時間を過ごさせていただいたと思っています。講演会に関しては以上です。

次の資料についてですが、「二宮町で認知症について学ぼう」と題し、認知症サポーター養成講座とステップアップ講座を開催しています。こちらも昨年に引き続き開催をしています。サポーター養成講座について、今

事務局

地域ケア会議という専門職が集まり、地域課題を考える会議がありますが、その中でも介護者の方が孤立しているのではないかとという事例を前回取り上げました。やはり「介護者のつどい」だったり、同じ経験をしている方同士が語り合うことで、自分だけではない、人に頼っても良いんだということがなかなか伝わり切らない。現在は老々介護であったり、介護者が1人しかいないというパターンが多く、そのケースは男性介護者の方でしたが、男性介護者は孤立しやすいということも課題として挙がっていたりしました。

「介護者のつどい」について、周知の仕方も工夫をしないといけないということも会議の中で挙がっています。委員がチラシを作成しています。それを町の広報紙や掲示板を使用して周知をしていますが、なかなか届かないところもありましたので、委員の事業所などをお願いをし、実際にデイサービスを利用している方に対し、直接届けてもらうという取り組みを行いました。すると反応があり、情報をきちんと届けること、それはこの生活支援体制整備事業にも通ずる部分があり、意識しないといけないということを話しています。

委員

その場に来るかどうかという点について、介護者の方は忙しく、決められた日、時間に来ることが難しい方が多いです。しかし、心から孤立してしまっているので、そういった方に対して、こういった場で、こういったことをしている、何か相談しても良いんだということが伝わるよう、今後も続けていければ良いなと思っています。

委員

今度、越地地区でにのんカフェを開催するかと思いますが、23日に間に合いますか。

委員

その点については、追って調整します。現在、委員は養成講座、ステップアップ講座を受講し、認知症の方が暮らしやすくするために、何ができるのかを一緒に考えてくださるメンバーになっています。地区を越えて認知症カフェができないかということを以前より話しており、色々な形で、家族も含めて認知症について考えていただける機会を増やしていければと思っています。

会長

情報が届かず、悩んでいる方が多いと思います。実際、訪問看護等、介護サービスを利用するとそういった情報が見えてくる部分はありますが、その前の段階で知っていただき、楽しくというわけではありませんが、認知症の方も含め、生活のスタイルができるといいのかなとは思っています。委員の事業所では、そういった相談、相談でなくとも問いかけみたいなもの

はあるのでしょうか。

委員 そうですね。やはり施設へ来れない方については、自宅へ出向き、直接お話を伺っています。施設へご相談いただいても大丈夫です。

委員 以前民生委員をしていた時に、施設で講座をしていると聞いたことがあり、悩んでいる方を連れて行ったことがありました。そこから色々と情報を得ることができ、とても助かったことがありました。やはり、そういったきっかけ作りというか、情報をキャッチする人と、情報を提供する人のマッチングができると良いですね。情報が多くある方が、キャッチはしやすいと思いますし、本当に悩んでいる方がどこへ行けば良いのかが分かると良いですね。

会長 この会議には、民生委員を務めている方もいらっしゃいますが、そういった情報は、皆さんに入った際に、どのようにされているのですか。

委員 こういうものがあると言える立場ですよ。

委員 言える立場ではありますが、家族がそれを認めたくない、受入れたくないという場合もあります。特に認知症であると、周囲に知られたくないという他に、自身の親の老いを受け入れられないということもあります。私たち商業者は、大体月1回くらいの頻度でお会いするのですが、注文した物を忘れてしまったなど、お身体の悪さが目に見える場合もありますが、ご家族に最近のお身体の様子がいかがですかと尋ねても、いつも通りですよとお答えが返ってきてしまう。そうなると、そこから先の話ができないんですよ。本人が求めていることを無理に押し付けることもできません。むしろ、民生委員をしていた時の方が慎重に、いかに相手がSOSを出した時に投げかけるか、提示するかということが仕事であったのかなと思います。今は民生委員の肩書がないので、もう少しフランクな形で、目的を持ってお声掛けをしています。ご家族と話しても、大丈夫よと言われれば、地域の民生委員へ、ここに住んでいる方の様子があまり良くななく、ご家族も少し抵抗があるようなので、何かあれば繋いでくれないか、様子を見てくれないかと言うことしかできません。認知症はやはりデリケートな問題ですよ。

会長 そういった意味では、先ほどの資料で、抜粋の感想が掲載をされていましたが、もう少しオープンに、この症状は認知症なのではないかと、家族を含め受け入れられる状況、状態ができると良いですよ。

これからも色々な形で、皆さんで勉強をしていかななくてはいけないと思
いました。それでは、他になければ次の議題に移ります。

(3) 福祉有償運送運転者講習～認定ドライバー養成講座～について

事務局

それでは事務局よりご説明いたします。資料3をお願いいたします。今
年度の開催で、3年目となります。2月2日、4日の2日間コースとなっ
ており、12月1日より申込開始となります。内容については、上段に記
載をしたとおりでして、1番の目的として地域の実質的な移動支援という
部分を考えていただくきっかけ、自分たちでできると思えるようなきっか
け作りとしています。今年度に関しては、この資格を取得した方が、実際
に移動支援等の仕事ができるよう、事業所等に働きかけをしながら、地域
貢献をしたい方とのマッチングができるようにしていきたいと思っていま
す。

一色小学校区でも、地域の通いの場の送迎について地域課題ととらえて
らっしゃるので、受講についてお声がけをしたところ、2名の方が参加し
たいとお話をいただいています。また、町主催の講座とは別に受講をされ
ている方も一色小学校区にはいらっしゃるようで、そういった方も再度集ま
っていただき、今後どのようなことができるかということを考えていける
機会を作りたいと思っています。

会長

先ほどもお話に上がりましたが、二宮町はエリアが狭いけれども、生活
の快適性などをより把握するためにも、こういったボランティア活動を含
め、移動、外出がしたい時にできる環境ができれば良いと思います。無
料とのことですので、是非ご検討をお願いします。次の議題に移ります。

(4) 第2層の協議体について

会長

それでは委員よりご説明をお願いいたします。

委員

委員に代わり、ご説明させていただきます。いちふくは10月30日に開
催をしています。各地区の通いの場の状況について情報交換をしていま
す。

百合が丘地区では、1丁目については講座を開催し、12から15名位の
参加があるとのことでした。また、2丁目については、会場が現在使用で
きない状態ですが、来年3月くらいから再開できるとの話がありました。
3丁目では映画鑑賞を行い、好評であったとのこと。また、音楽会を
行い、79名の参加があったそうです。そのほか、健康遠足の話も出てお
りました。

一色地区については8月を休止としていましたが、9月には再開し、茶

話会や座ってできるゲーム、10月には大磯署の方に来ていただき、詐欺についての講話をしていただいたとのことです。また、写経、ハーモニカ演奏を今後予定しているとのことでした。

緑が丘地区では、出前講座や、忍野八海へお出かけをされたそうで、16名の参加とのことでした。

また、緑が丘地区では、男性の参加者が少ないとの話がありました。やはり、ゴルフなどの集まりに出ている方が多いとの話がありました。また、スポーツができる場所があればなどとの話も出ていました。その他、各協議体の話の共有を私から、お互いさま推進協議会での話を委員よりさせていただきました。

副会長

補足ですが、百合が丘の地区社協にて、ふれあい音楽会を開催いたしました。大変好評であり、75歳以上の方で79名の参加がありました。お話をしたり、簡単な演奏会がありました。とても多くの方にご参加いただき、会場も一杯となりました。健康遠足については、坂を大分登りますので、12名の参加でした。その他、福祉祭りを開催いたしました。役員50名、社協、いつでもどうぞのご協力をいただき、お客様が約100名来ていただいたとのことです。おにぎり、みかんやお芋を販売し、全て完売となりました。ちょうど本日反省会を行い、反省点については次回に活かすようにいたします。以上です。

会長

ありがとうございました。次の報告をお願いいたします。

委員

たんぼぼささえたい（以下、「たんぼぼ」）、クローバーの笑・輪・和（以下、「クローバー」）については、同様の内容で開催をいたしましたので、併せて報告をさせていただきます。「たんぼぼ」が9月21日、「クローバー」が9月28日に開催をしています。前回の協議会にてご説明をさせていただきました、地域支援プログラムと言って、SCをサポートいただける県社協の事業に参加をさせていただいておまして、駒沢大学の川上先生に参加いただき、色々とお話をいただいております。今回2層協議体をどのような目的でやっていくのか、どのように進めていけば良いのかという部分で私も悩んでおり、その点を川上先生にご相談させていただきました。今回「たんぼぼ」、「クローバー」にて講演をいただく運びとなりました。「地域防災・地域福祉と住民活動」をテーマにお話をいただきました。今回生活支援という中で、防災がどのように結びつくのかということをお話いただきましたが、災害時に命を落とされる方は、高齢者の方、障がい者の方が多くいらっしゃる話や、今後二宮町でも進んでいく個別避難計画の話をしていただきました。なぜこういった話かということ、見知っ

ている方どうしであれば、災害時に助け合いができる、知らない方であると、なかなかそれができないということで、今のうちから顔の見える関係を構築し、いざという時に、助けたり、助けられたりするということが重要であるという点から、このテーマで先生よりお話をいただきました。やはり自分事として共感できないことには、自分の中に活動性が生まれてこないということもあり、そういった所を自分事として考えられるような身につまされるテーマという部分で人は共感できるというお話をさせていただきました。

また、事例の紹介もありました。ある防災士の方のお話で「災害時に誰が助けてくれるのか。救急車も消防車も来ず、助けてくれるのは隣近所です。だから今のうちから関係性作りをしましょう。」「実際に見たことない人より、見たことのある方を助けませんか。知っている方であれば一緒に逃げることもできるかもしれないし、おにぎりが1つしかなければ半分あげることができます。だから向う三軒両隣、隣近所で仲良くしてほしいんですね。」というお話で、地域の福祉の問題について、こういった部分で防災のお話と繋がってくるという内容でした。

長野県白馬村の事例では、災害があった際、かなりの規模で半壊、全壊の被害があったのですが、一人の死者も出ず、それは周りの方がいつでもどこにいるかということ把握していたから対応ができたという事例でした。それは普段の関係性があるからこそであり、二宮町も顔の見える関係性を作っていきたいと思いました。

先生の講演後、少数のグループになり話し合いもしています。その中では、誰にこの話を持っていけば良いのか、地区長さんへ持っていき、関心を高めていただくことや、共感を得ることでこういった話を進めていけば良いのではないかという意見もありました。もっと多くの町民の方にこのお話を広めたいという所で進めています。

地域の活動の話をする中で、会議体が結構多くあったり、地域での担い手がいつも同じ顔触れであるという点で、似たような会が多く存在しているので、整理が必要ではないかとの話も出ていました。そのような流れより、資料にある二宮町防災講演会の開催に繋がりました。来年1月20日に開催されますが、この講演会の2部講演にて、川上先生に今回の協議体のお話をさせていただくこととなっています。

「たんぼぼ」、「クローバー」では前回までは移動やゴミ出しについてをテーマとして話し合いをしましたが、今回川上先生にお話をいただく機会をいただきました。次回は来月の開催となりますが、テーマについて移動、ゴミ出しにするか、今回の先生のお話を踏まえてたテーマにするかを考えていきたいと思っています。

会長

ありがとうございました。講演会の資料の最終ページ、「二宮町の地域活動のこれからを考える」というページですが、これはとても話題になったかと思いますが、「今後10年間に現在の中心的な担い手世代が引退するが、あなたの地区では、このまま現状の組織・役割・活動量・内容・会費を維持できますか？」とあります。私が住んでいる地域でもそういった傾向は強いですし、皆さんの地域はいかがでしょう。これは二宮町だけでなく、全国的な問題となっています。今は何とかなっているけど、これからどうなるのかということは、1つの課題だと思います。

協議体へ参加されている方で、補足等ありますか。たんぼぼには私も参加させていただきましたが、自身の地区はどうなのかを考える機会があまりなく、状況を確認し合う機会とはなりませんでした。特に防災については、関東大震災レベルの震災が来るかもしれないことや、富士山が噴火するかもしれないなどという情報はありますが、それに対しどうするのかということ、防災訓練は定期的に行っていますが、もう少し自分事に捉えておくことが良いのかなど、川上先生のお話を伺い思いました。皆さんの住んでいる地域の中で、防災について活動されている所はありますか。

委員

津波の心配はあまりありませんが、避難場所が町立体育館です。最近では少ないですが、防災備蓄品の準備等をしていただいています。また、集まる場所もなかなかなくて、私の住んでいる地域は線路があり、そこで区切られてしまいます。1つは児童館へ、もう一つは体育館へ行く前に集まる場所をどうするかということを考えています。しかしそういった場所もなく、中道の角に集まろうという話にはなっています。まずは自分、近所の方を支えること、人によっては組に入っていない方もいます。そういった方をどうするか悩んでいます。やはり町内会に加入しない方が増えていますね。組長が順番で回ってくるのですが、自身は高齢だからできないと言われる方もいます。ただ、そうではなく周りの人で支えるから残ってほしいと思っています。

また、民生委員も務めています。最近高齢者の一人暮らしが増えてきます。その方たちをどのように支えるかについて悩んでいます。高齢者世帯の方でも、本人たちが大丈夫と言え、それ以上入れません。そういった点も困っています。

会長

防災に関する社会資源の整理もあって良いかもしれないですね。ラディアンや二宮高校等避難場所がありますが、人が集中して入りきれないことも考えられますよね。そういったことも含め、まずは自助努力をしないと困ってしまいますよね。

2層協議体のお話をいただきました。次回は12月中とのこと。次

の議題に移ります。

(5) その他

事務局

こちらは先ほど委員よりお話いただいた内容となります。二宮町防災講演会についてです。第1部講演として、「関東大震災から100年“その教訓と今後の備えについて”」とあり、先日ケアマネジャーの皆さんと町防災部局とで勉強会を開催しましたが、二宮町は災害が少なく、関東大震災より死者を出していないとお話もありました。また、第2部にて川上先生より講演をいただきますので、是非聞いていただき、ご自身の地域へ持ち帰っていただきたいと思っており、色々な方にお声がけいただけると幸いです。

また、最後に高齢介護課長よりお話させていただきます。

高齢介護課長

冒頭、資料1について事務局よりご説明いたしました、包括ケアシステムの推進について、お互いさま推進協議会も入れさせていただいております。その中で、二宮町高齢者保険福祉計画及び第9期介護保険事業計画、これは3年に1回作成をするものとなっておりますが、今回この9期計画を作成に向け動いており、令和6年度から令和8年度が対象となります。こちらが二宮町の高齢福祉施策や介護保険事業のバイブル的存在となっております、計画値や目標値等を記載しています。今回、皆様へお知らせをさせていただくのが、今後広報等にも記事が掲載されますが、町民意見募集を来年1月に行うこととなりました。是非計画を見ていただき、ご意見等をいただければと思っておりますので、是非よろしく願いいたします。

会長

他にありますか。

委員

今週の土曜日に包括支援センター主催の家族介護教室を開催します。町亞聖さんをお招きし、ご自身の介護体験を語っていただく予定です。参加費は無料ですので、是非ご参加いただければと思います。以上です。

会長

では本日の議題は以上となります。

事務局

本日は貴重なご意見等ありがとうございました。また、自分事と考えていただきお過ごしいただければと思います。次回は2月27日同時刻、同会場となりますので、よろしく願いいたします。それでは本日の協議会を閉会といたします。ありがとうございました。

閉会 午後8時01分